



—笹川友愛会 旅行記—

去る、3月23日～24日、恒例の笹川友愛会の旅行が群馬県・草津温泉にて開催され、東京笹川会より女性5名、男性7名が参加し郷里の皆々様との親睦を深めることが出来ました。(総勢50数名)

笹川の近況

—今冬は、雪が沢山降りました—

草萌える季節となりましたが、笹川の今冬は11月はじめの寒波の襲来で初雪がふり、さらに年末から2月末までの寒波で山々は数年ぶりに深雪となりました。



笹川入り口から入山方面を眺望



元小学校付近から雁谷を眺望



南保富士TVカメラで笹川を俯瞰



長野新幹線 上田駅で合流



草津温泉 湯畑



笹川ならではの余興大会



盆踊りを楽しむ

—22年度上半期 行事計画—

- 4月 4日(日) 地区定期総会
- 4月10日(土) 春祭り・花見会
- 4月11日(日) 里山整備1回目
  
- 7月 4日(日) 朝日石油杯笹川ゲートボール大会
- 7月18日(日) 笹川プール清掃
- 7月25日(日) 里山整備2回目
  
- 8月22日(日) 里山整備3回目
- 8月28日(土) 秋祭り・盆踊り

### ー笹川の炭焼きー

笹川では昭和40年代初期(推測)まで、地区共有林で炭焼きが行われていました。

共有林は約1,200町(1,200万平方メートル、東京ドーム約260個分の広さ)有り、それを40年で一廻り伐採し炭焼きをする計画でしたので、毎年、約30町(東京ドーム約7個分弱)を15~20人の炭焼き人を地区内、または近隣の地区から募集して請負の形で炭焼きを行っていました。



当時の炭焼き人の皆さん

当時は小木のうちに炭の材料として使われた木々は、今日では炭焼きが行われていないためブナ林などとなっていますが、山は生き物です。このように大木になった木々は根が腐り枯れたり、雪、風で倒れたりするモノが出始めています。

自然林は見た目には良くても、古い木々から若い新しい木々に再生させてこそ山が守れると思います。

そう言った意味から、過去の笹川の自然林は炭焼きで守られていたと言っても過言ではありません。

炭焼き人たちは春の訪れとともに山に入り、まず、炭焼きの材料になるブナ、ナラの木などを切り倒し炭焼きの材料を作りました

お盆ごろには炭焼きの初釜が始まり、山々のあちこちから炭焼きの煙がのぼり、まるで狼煙(のろし)のように見えました。

焼きあがった炭は人間が担いで降ろすか、または、炭焼き場所から鉄線を何段か張り巡らし、滑車に炭をぶら下げて道まで一気に降ろしていました。そこからは馬車で村まで運んでいました。

### ー炭焼きクラブの活動ー

2003年6月に三峯グリーンランドに待望の炭焼き窯を手作りで製作しました。今、地区では炭焼きを再開してはとの動きがあります。

炭焼きの体験学習をご希望の方は、問い合わせ下さい。



成長したブナ林(南保富士・直下)

